

2019年度

No 7 9月18日

松 籟



発行者

穴水秀人

異学年集団の魅力

9月15日（日）午後6時、生徒会長湯沢さんの閉祭宣言とともに、第30回秋桜祭の幕が閉じられました。この2日間でたくさんの成果をもたらし、成功裏に終えることができました。生徒たちの感想発表の中にも、とても充実した2日間であったことが、経験を踏まえた自分の言葉で表現されていました。本当にお疲れ様でした。

その中で、印象的な感想がありました。1日目文化の部閉会式でのことです。「昨年、先輩たちの演劇を見て、そのレベルの高さにとても感動しました。私たちもそれに近づこうと精一杯頑張りました。・・・」上級生にとっては最高の褒め言葉であり、上級生冥利に尽きます。それを聞いた私にとっても、とてもうれしく、「さすが上級生だ。」と感心しました。上級生（年上）が下級生（年下）に模範を示すことは、社会の常かもしれませんが、それはそれで結構難しいこともあるのではないのでしょうか。

幸いにも、八田中学校では、年間を通しての諸活動の中に、異学年で構成される集団（系列集団）を意図的に作り、その中でお互いに切磋琢磨することが伝統になっています。その最たるものが「秋桜祭の応援合戦」です。3年生は、各系列ごとに夏休みから応援合戦の構成を考え、練習を積み重ね、下級生の指導に備えています。披露当日まで少ない練習時間の中で、団長さんを中心に3年生が側面から支えながら、1、2年生を指導する様子を見て、異学年で構成される集団のかくあるべき姿がここにあると、心の底から感じました。本校の体育の部は、学年間の勝敗も気になる場所ですが、系列集団ごとの勝敗にこだわるところが、八田中学校らしさではないのでしょうか。

一昔前は、下級生にとって上級生は、ちょっと怖くて近寄りがたい存在でした。声をかけられると緊張して体が固まってしまうこともたびたびでした。近頃は、下級生と上級生との間の壁はそれほどなく、アットホーム的な雰囲気すら感じられます。その様な中でも、異学年の適切な関係を保つことができるこのような取り組みを大切にしていきたいと思います。